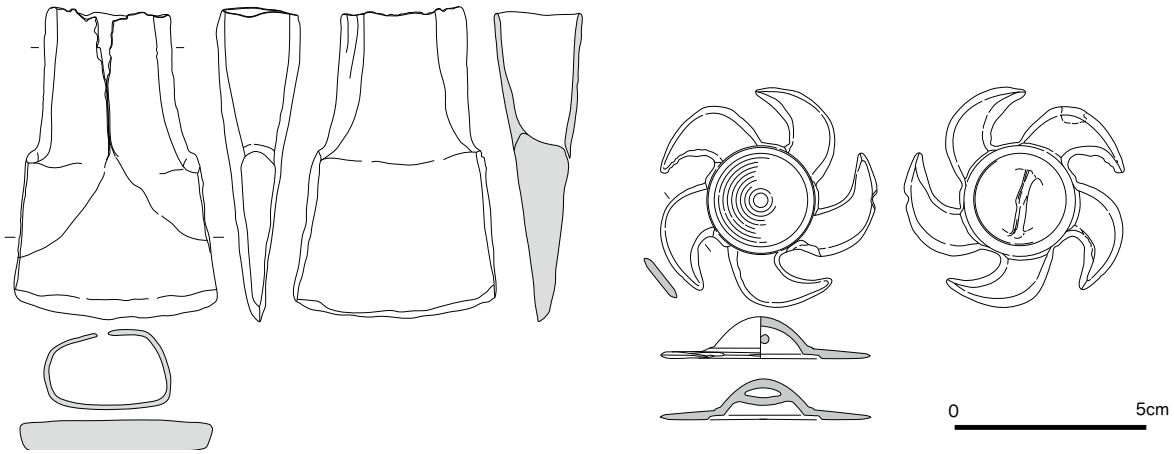
III . 刊行報告書抄録

第 138 集朝日遺跡 VII

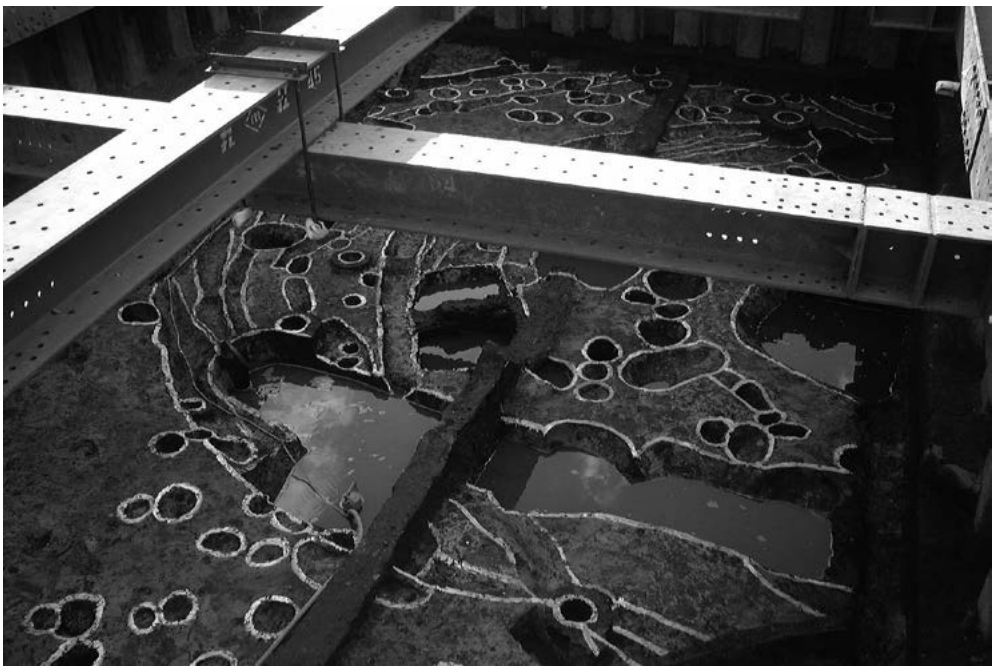
朝日遺跡は東海地方の弥生時代の環濠集落を代表する遺跡で、これまでにも多くの発掘調査が行われてきた。現在では、清須市と西春日井郡春日町、名古屋市西区にまたがる境界部分に位置するが、東名阪自動車道、国道 22 号、国道 302 号、そして近年建設された名岐高速道路と交通の要地として景観を一新してきた。今回の朝日遺跡の発掘調査は、この名古屋高速道路 16 号一宮線に伴う清洲 JC 付近の建設に先立って行われたものである。

本報告に関わる発掘調査は、過去の調査地とも重複する 87 カ所にも及ぶ地点の調査成果であり、これまで弥生時代の遺物包含層として考えられてきた「黒色土」を 2 面から 6 面に分けて調査し、朝日遺跡の構造解明を試みた。弥生時代の環濠、方形周溝墓、おびただしく重複する竪穴住居や柱穴など弥生時代の人々の営みの痕跡が検出され、これまでの調査成果の多くを追認し、また新たな知見を提供できた。また出土遺物においても、全国でも希少な巴形銅器、大陸から伝来したキ龍文鏡を用いたペンダント、鍛造された有肩袋状鉄斧をはじめとする多種多彩で多量の遺物の分析を行なった。

尚、本報告に関わる遺構・出土遺物の多量の資料をデータベース化し、添付 DVD に掲載して、後日の利用に供した。



有肩袋状鉄斧（左）と巴形銅器（右）



99Ab 区 4 面遺構

報告書抄録

ふりがな	あさひいせき　なな
書　　名	朝日遺跡　VII
副 書 名	遺構編、出土遺物編、総括編
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第138集
編著者名	蔭山誠一、樋上昇、赤塚次郎、川添和暁、堀木真美子、鬼頭剛、山崎健、織田銑一、馬場伸一郎、原田幹、村上恭通、寺前直人、岡田賢、藤根久、新山雅広、植田弥生、鈴木茂、永草康次
編集機関	財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　　TEL.0567(67)4161
発行年月日	西暦 2007年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
あさひ　いせき 朝日遺跡	きよすし　なご 清須市、名古屋市西区、西春日井郡春日町	21	21002	35度 13分 18秒	136度 51分 18秒	1998年12月 ～ 2004年3月	11,032㎡	近畿自動車道名古屋関線J清洲JCT建設、県道高速清洲一宮線建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝日遺跡	集落	弥生時代 ～ 古墳時代	環濠、竪穴住居、掘立柱建物、方形周溝墓溝、水田、溝、土坑、旧河道など	弥生土器、土師器、石器、木器、青銅器、鉄器、ガラス小玉、骨角器など	弥生時代から古墳時代前期の環濠集落 棒状鹿角製品 キ龍文鏡 巴形銅器 有肩袋状鉄斧 木製精製鉢 動物遺存体
		平安時代 ～ 江戸時代	旧河道、方形土坑、水田、用水路など	山茶椀、小皿、瀬戸・美濃産陶磁器 木器	

文書番号	発掘届(10埋セ261・10.10.30／11埋セ170-1・11.8.30／13埋セ18・13.5.22 ／13埋セ113-2・13.10.22／13埋セ189・14.3.28／13埋セ190・14.3.28／13埋セ191・14.3.28 ／14埋セ159・15.2.26／14埋セ160・15.2.26／14埋セ161・15.2.26／16埋セ51・16.9.13) 発掘許可(10教文61-27・10.11.6／11教文61-26・11.9.10／13教生36-3・13.6.8 ／13教生36-21・13.11.8／14教生72-1・14.4.9／14教生72-3・14.4.10／14教生72-2・14.4.9 ／14教生72-11・15.3.7／14教生72-15・15.3.7／14教生72-12・15.3.7／16教生1182・16.9.29) 調査終了届(11埋セ58・11.3.15／12埋セ29-1・12.3.24／13埋セ192・14.3.28 ／13埋セ193・14.2.28／14埋セ157・15.2.19／14埋セ179・15.3.10／14埋セ158・15.2.19 ／15埋セ127・16.3.23／15埋セ42・15.8.12／15埋セ41・15.8.12) 遺物発見届(11埋セ59・11.3.18／12埋セ30-1・12.3.24／13埋セ192・14.3.28 ／13埋セ193・14.2.28／14埋セ157・15.2.19／14埋セ177・15.3.14／14埋セ158・15.2.24 ／15埋セ127・16.3.25／15埋セ42・15.8.14／15埋セ42・15.8.14) 埋蔵文化財保管証(11埋セ59・11.3.18／12埋セ30-2・12.3.24／13埋セ192・14.3.28 ／13埋セ193・14.2.28／14埋セ157・15.2.19／14埋セ177・15.3.14／14埋セ158・15.2.24 ／15埋セ127・16.3.25／15埋セ42・15.8.14／15埋セ41・15.8.14) 埋蔵文化財保管証(11埋セ59・11.3.18／12埋セ30-2・12.3.24／13埋セ192・14.3.28 ／13埋セ193・14.2.28／14埋セ157・15.2.19／14埋セ177・15.3.14／14埋セ158・15.2.24 ／15埋セ127・16.3.25／15埋セ42・15.8.14／15埋セ41・15.8.14)

要約	今回の調査で確認された遺構や遺物を9期に大別した。これまでの調査により明らかにされている弥生時代から古墳時代前期の集落遺構の多くを追認した。 新たな成果としては、朝日遺跡の南北の周囲に水田遺構等の生産域が展開すること、南北の居住域内部の遺物包含層中における遺構の変遷、北居住域の環濠の廻り方、木器製作地のあり方、朝日遺跡の微地形と遺構の占地の関係などが明らかになった。 出土遺物においては多量の遺物の出土情報を記録できた。遺物の分析では木器や未成品・加工材等から見た木材利用、剥片石器と石器製作残材から見たの剥片石器の製作、磨製石斧の使用と廃棄、骨角製品と骨角未成品・動物遺存体から見た動物利用、有肩袋状鉄斧の製作技法の解明とその東アジア的位置付け、弥生時代の石棒の形態変遷などを明らかにできた。

第 141 集　伝法寺野田遺跡

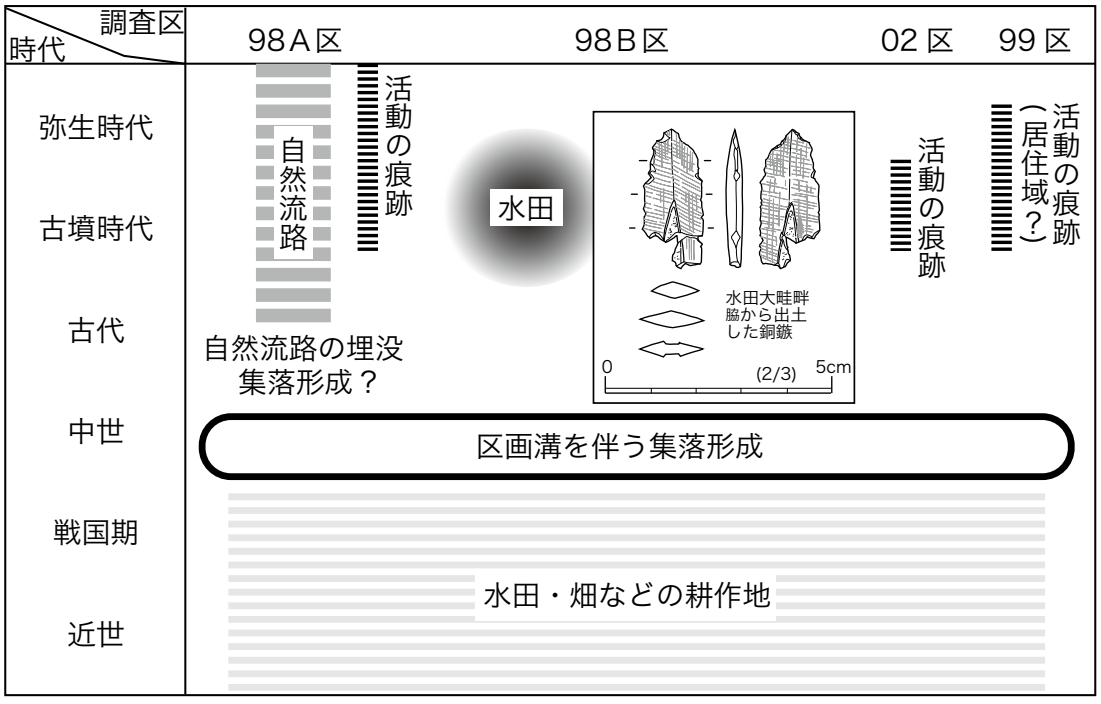
整理作業による成果は、以下の通りである。

遺跡は、弥生時代～古墳時代と古代以降に大きく二分される。弥生時代～古墳時代では、特に、98B 区で検出された水田跡に関して、検出層位と出土遺物の分布状況を検討した。大畦畔脇で出土した銅鏃の帰属時期にも関連して、時期幅を広く持たせた報告にした。銅鏃については、当地域における鏃・刺突具類との比較検討を通じて、若干の評価を行った。古代以降では中世初頭に区画溝を伴う屋敷地が形成された可能性がある以外は、近年に至るまで水田・畑など、繰り返し耕地として利用されていたことが明らかとなった。　（川添和暁）

本文 88 頁、遺構図版 14PL、写真図版 17PL

CD-ROM 収録データー

◯報告書 PDF 版　　◯遺物登録一覧表　　◯年報 平成 10 年度考察編



報告書抄録

ふりがな	でんぽうじのだいせき
書名	伝法寺野田遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第141集
編著者名	川添和暁・鬼頭　剛・古澤　明・平尾良光・榎本淳子・早川泰弘
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
発行年月日	西暦2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積㎡	調査原因
でんぽうじのだいせき 伝法寺野田遺跡	いちのみやしたんようちょう 一宮市丹陽町	2302	103	35 度 15 分 46 秒	136 度 50 分 39 秒	199804～ 200207	5,940㎡	五条川右岸流域下水道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
伝法寺野田遺跡	水田・集落遺跡	弥生～古墳	水田跡・溝・土坑など	土器・石器・銅鏃など	
		古代～中世	水田跡・区画溝・土坑など	陶器・加工円盤など	
		近世	水田跡・溝など	陶器など	

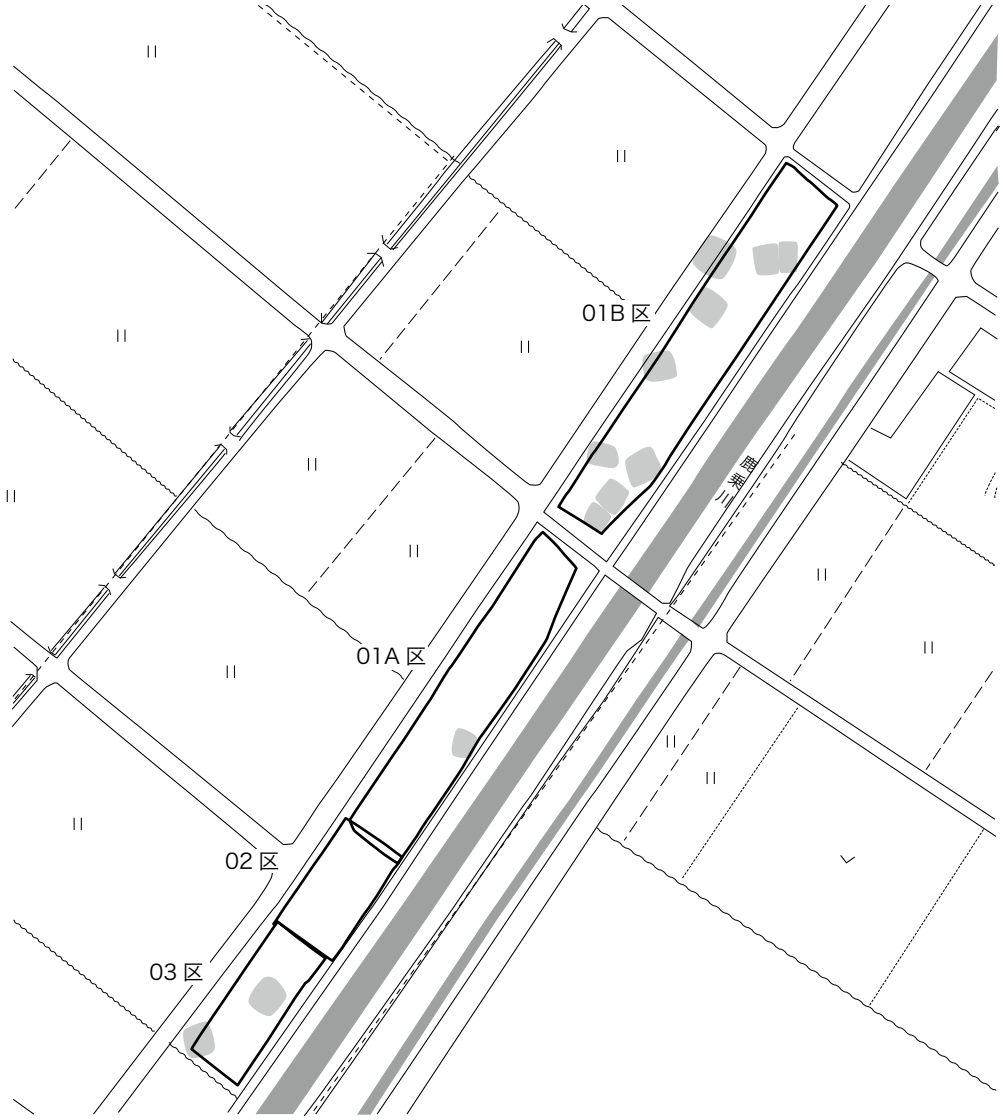
文書番号　発掘届出(10埋セ108号・10.4.2／ 11埋セ78-1号・11.4.1／13埋セ第176号・14.3.5)
通知(10教文第61-7号・10.4.14／ 11教文第61-4号・11.4.19／ 13教文第36-27号・14.3.14)
終了届(10埋セ第227号・10.9.24／11埋セ・11.8.4／14埋セ第55号・14.7.31)
保管証・発見届(10埋セ第228号・10.9.24／11埋セ・11.8.4／14埋セ第55号・14.7.31)
鑑査結果通知(10教文第61-7号・10.11.9／ 11教文第61-4号・11.10.28／ 13教文第36-27号・14.11.5)

要約　遺跡のあり方としては、弥生時代～古墳時代と古代以降に大きく二分できる。弥生時代～古墳時代の景観は、不明瞭な集落域と水田跡とがある。これらは同時期の所産ではなく、時期幅がある可能性を指摘した。大畦畔脇から出土した銅鏃については、当地域における鏃・刺突具類との比較検討を通じて、若干の評価を行った。古代以降では中世初頭に区画溝を伴う屋敷地が形成された可能性がある以外は、近年に至るまで水田・畑など、繰り返し耕地として利用されていたことが明らかとなった。

第 145 集　上橋下遺跡

上橋下遺跡は、矢作川右岸に形成された沖積低地の中で、ここを流れる鹿乗川の西側微高地上に立地する。調査地点の旧態は水田で、周辺一帯は現在も水田が広がる。現地表高は、約 3.0 mを測る。

調査地点の基本層序は、客土の下に旧耕作土が 0.2 m入り、その直下に数層のシルトが堆積していて、灰色シルト層では古代末から中世の、暗赤褐色シルト層では弥生時代後期から古墳時代初頭の遺物が含まれていた。調査地点は鹿乗川右岸に沿って、平成 13・14・15 年度と順次北側から調査が行われた。13・14 年度の調査区で検出された自然河道は、15 年度の調査地点でも縦断しており、上面で確認された遺構は、水田・溝・土坑などであった。遺物は遺構に伴うものが少なく、わずかに古代から中世のものと思われる陶器片が、検出作業の段階で確認できた。下面では、方形周溝墓、溝、土坑などが検出され、弥生時代中期から古墳時代前期と思われる土器片が確認されている。　（松田 訓）



上橋下遺跡遺構全体図 S=1/200

報告書抄録

ふりがな	かみはしかいせき
書名	上橋下遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第145集
編集者名	松田 訓・池本正明・宮腰健司・樋上 昇・鬼頭 剛・森 勇一・鈴木 茂・植田弥生
編集機関	愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　℡0567-67-4161
発行年月日	西暦　2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かみはしか 上橋下遺跡	あいちけんあんじょうし 愛知県安城市	23213	54089	34°55′53″ 34°55′50″ 34°55′49″	137°06′19″ 137°06′17″ 137°06′16″	2001.10.9 ～2002.3.22 2003.1.15 ～2003.3.24 2004.1.7 ～2004.3.31	5400	鹿乗川の改修に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上橋下遺跡	墓域ほか	弥生～近世	方形周溝墓 土坑・溝	弥生・土師器 山茶碗	

文書番号	発掘届出(13埋セ第77-2号・2001.8.28)　通知(13教生第36-17号・2001.9.17) 発掘届出(14埋セ第117号・2002.12.4)　通知(14教生第72-10号・2003.1.6) 発掘届出(15埋セ第83号・2003.11.28)　通知(15教生第72-9号・2004.1.13) 終了届・保管証・発見届(13埋セ第182号・2002.3.26) 終了届・保管証・発見届(14埋セ第181号・2003.3.26) 終了届・保管証・発見届(15埋セ第129号・2004.3.30) 鑑査結果通知(13教生第36-17号・2002.6.3) 鑑査結果通知(14教生第72-10号・2003.6.2) 鑑査結果通知(16教生第135号・2004.4.19)

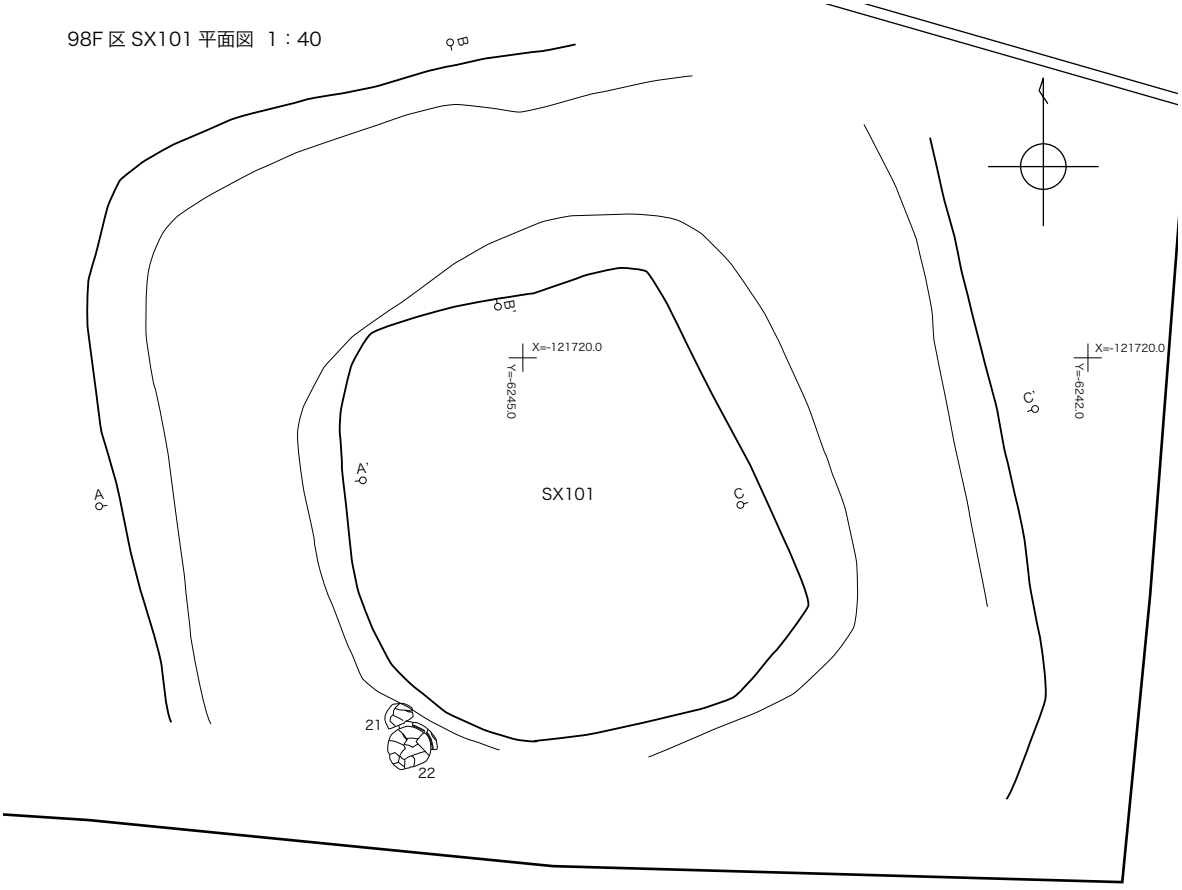
要約	本遺跡は、碧海台地東端と矢作川との間に広がる沖積平野に展開する。3ヶ年度に別れた調査では、弥生時代中～後期の方形周溝墓を主体とした遺構が複数検出され、墓域としての利用が考えられることから、当該期に近隣に所在した集落も想定される。本遺跡は、沖積平野に展開する遺跡群に含まれているものと思われ、周辺の集落を含めた実態を解明する上で、貴重な資料として位置づけることができよう。

第 145 集　鹿乗川流域遺跡群

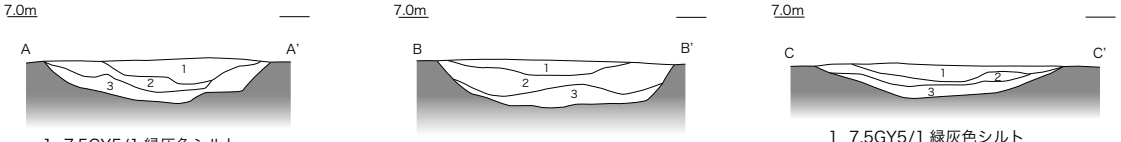
調査地点は、碧海台地東部を流れる鹿乗川流域に所在し、碧海台地と、矢作川右岸との間に形成された沖積平野との境界部に展開する。発掘調査は、鹿乗川改修にともなう送電用鉄塔移設工事に先立ち、その事前調査として実施された。調査区は、既存の鉄塔東に隣接する移設予定地８ヶ所に設定された。調査期間は、平成 10 年 10 月から平成 11 年３月までで、総調査面積は 800 ㎡である。

各調査地点の旧態は水田で、調査地付近の現地表高は、北側のＡ区で標高約 8.2 m、南側のＨ区で約 7.4 mを測る。８ヶ所の調査地点は、それぞれ異なった様相を示したが、碧海台地の舌状にのびる縁辺と沖積平野が錯綜する中で、その地理的な環境を利用した居住域、墓域などが、必要に応じて微高地を中心に形成されたものと考えられる。検出された遺構は、土坑、溝、竪穴住居跡、方形周溝墓などで、出土遺物は弥生時代中期から古墳時代前期の土器片が主体となった。　（松田 訓）

98F 区 SX101 平面図　1：40



98F 区 SX101　1：40



1　7.5GY5/1 緑灰色シルト
2　5GY5/1 オリーブ灰色シルト
3　5GY5/1 オリーブ灰色シルト（斑土）

1　7.5GY5/1 緑灰色シルト
2　5GY5/1 オリーブ灰色シルト
3　5GY5/1 オリーブ灰色シルト（斑土）

1　7.5GY5/1 緑灰色シルト
2　5GY5/1 オリーブ灰色シルト
3　5GY5/1 オリーブ灰色シルト（斑土）

報告書抄録

ふりがな	かのりがわりゅういきいせきぐん
書名	鹿乗川流域遺跡群
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第145集
編集者名	松田 訓・宮腰健司
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方８０２-２４　TEL 0567-67-4161
発行年月日	西暦　2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かのりがわりゅういきいせきぐん 鹿乗川流域遺跡群	あいちけん あんじょうし 愛知県安城市	23213	5436ほか	34°55′17″ 34°55′06″ 34°54′55″ 34°54′44″ 34°54′33″ 34°54′21″ 34°54′10″ 34°53′60″	137°05′54″ 137°05′53″ 137°05′50″ 137°05′48″ 137°05′45″ 137°05′47″ 137°05′43″ 137°05′40″	1998.10.13 ～ 1999.3.19	800	鹿乗川改修工事に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鹿乗川流域遺跡群	集落/墓域	弥生～古代	竪穴住居 方形周溝墓	弥生土器・ 土師器	鹿乗川流域の碧海台地縁辺部確認

文書番号	発掘届出(10埋セ第212号・1998.9.1)　通知(10教文第61-22号・1998.9.28) 終了届・保管証・発見届(10埋セ・1999.3.29) 鑑査結果通知(10教文第61-22号・1999.5.18)

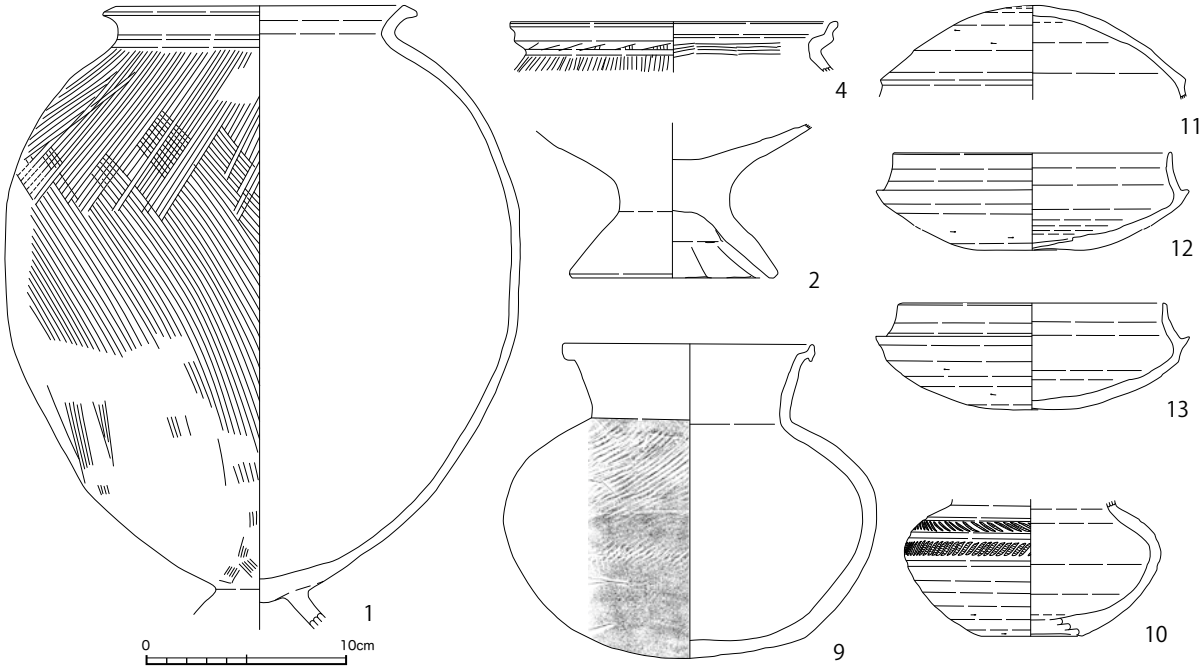
要約	調査は、高圧線鉄塔移設予定地８ヶ所に、それぞれ一辺10mの正方形で調査区が設定された。全調査区は碧海台地縁辺部にあたり、旧態が水田で、少ないながら弥生時代中期末葉～古墳時代前期にかけての遺構、遺物が検出された。

第 146 集　高木遺跡

高木遺跡は丹羽郡扶桑町に所在する。犬山扇状地帯の微高地と木曽川から繋がる旧流路の低地にかかる標高 29 ～ 32.5m の部分が調査範囲となった。周辺の微高地上には高木古墳をはじめ 7 世紀代の古墳が点在し、隣接する斎藤集落には式内社である前利 (さきと) 神社が存在する。石器 , 土器 , 須恵器 , 山茶碗が採集されてはいたが、これまでに発掘調査は行われていなかった。

今回調査の結果、微高地上に散漫ながら遺構・遺物の分布を確認し、古墳時代、平安時代、鎌倉・室町時代と断続的に継続する複合遺跡であることがわかった。明確な居住域は検出されなかったが、一辺約 10m 規模の方墳周溝、古墳時代と思われる大溝、平安時代の溝、中世の集石遺構等が確認されており、調査地点は集落の周縁部であったと考えられる。　（武部真木）





報告書抄録

ふりがな	たかぎいせき
書名	高木遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第146集
編著者名	加藤博紀　・　武部真木　・　鬼頭　剛
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802番24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
たかぎいせき 高木遺跡	あいちけんにわぐんふそうちょう 愛知県丹羽郡扶桑町 おおあざたかぎ 大字高木	23362	240013	35度 21分 34秒	136度 54分 27秒	2003.7.1～ 2003.11.30 2004.4.1～ 2004.5.1	2,750 850	県道草井羽黒線道路改築事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高木遺跡	集落跡	古墳時代	方形区画溝・大溝	土師器・須恵器	
		古代	溝	灰釉椀・長頸壺	
		中世	集石・溝	中世施釉陶器	

文書番号	発掘届出(15埋セ第10号 2003.5.10／15埋セ第116号 2004.3.2) 通知(15教生第72-3号 2003.5.15／15教生第72-11号 2004.3.11) 終了届・保管証・発見届(15埋セ第74号 2003.11.18／16埋セ第25号 2004.5.31) 監査結果通知(16教生第824号 2004.8.4)

要約	本遺跡は、扇状地上における集落跡であり、今回の調査において、比較的規模の大きい溝を中心に、古墳時代～近世の各時代の遺構・遺物が検出された。古墳時代では、方形区画溝の存在から集落周辺の墓域の可能性が考えられる。

第 152 集　夏敷古窯跡・蛇廻間古窯跡

目　　次

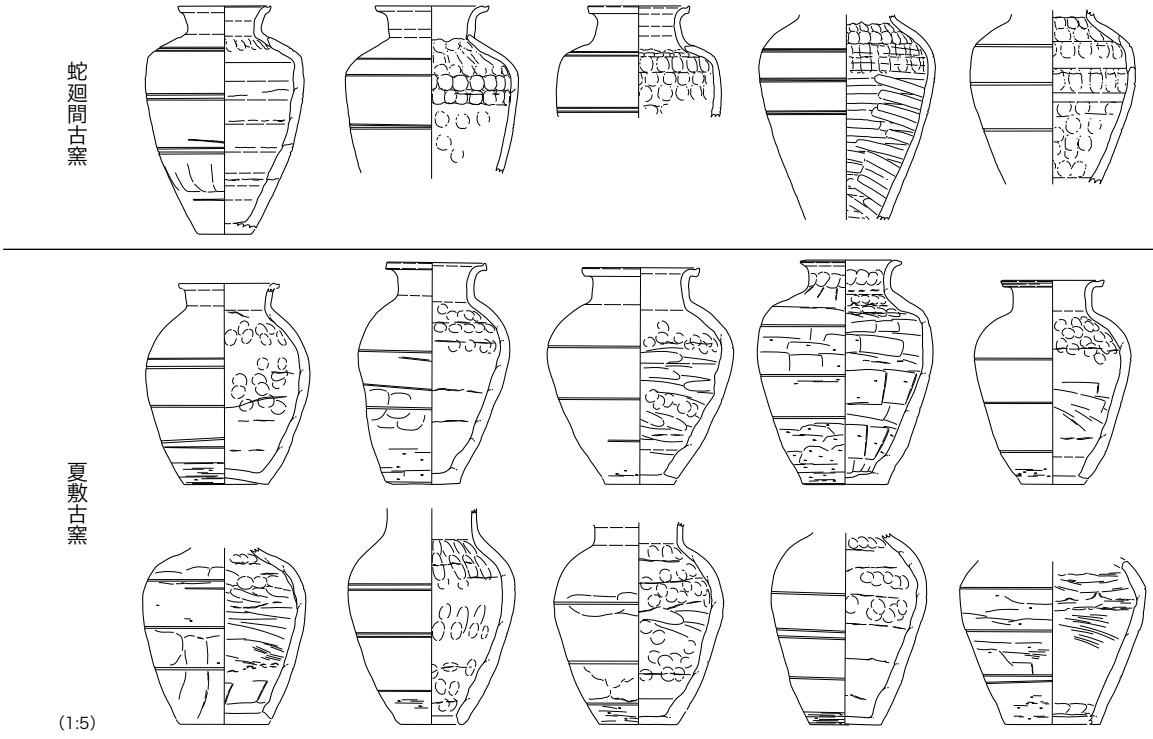
巻頭写真／序／例言

I　調査の概要
　第１章　調査の経緯
　第２章　調査の概要
　第３章　周辺の環境

II　夏敷古窯跡
　第１章　遺構
（１）検出遺構　（２）窯体　（３）前庭部　（４）灰原　（５）近世の遺構
　第２章　遺物
（１）中世の遺物　（２）近世の遺物
　第３章　自然科学分析
（１）放射性炭素年代測定　（２）炭化材の樹種同定
　第４章　考察とまとめ
（１）編年的考察　（２）生産の動向　（３）夏敷古窯の特質　（４）まとめ

III　蛇廻間古窯跡
　第１章　遺物
（１）検出遺構　（２）遺構の概要　（３）遺物の分布状況
　第２章　遺物
（１）中世の遺物　（２）近世の遺物
　第３章　まとめ
（１）編年的位置　（２）生産の特質

付編
　常滑古窯跡群既調査窯一覧
　発掘調査報告書目録
　遺物一覧表
　報告書抄録



報告書抄録

ふりがな	なちきこようあと　じゃばさまこようあと
書名	夏敷古窯跡　蛇廻間古窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第152集
編著者名	早野浩二・宮腰健司・小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・植田弥生
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
なちきこよう 夏敷古窯	あいちけんとこなめし 愛知県常滑市 なちきちない 夏敷地内	232165	42194	34度 53分 41秒	136度 50分 59秒	2004.04.22 ～2004.07.17	915	常滑西特定 土地区画 整理事業
じゃばさまこよう 蛇廻間古窯	あいちけんとこなめし 愛知県常滑市 じゃばさまちない 蛇廻間地内	232165	42195	34度 53分 51秒	136度 51分 30秒	2004.07.01 ～2004.07.17	700	常滑東特定 土地区画 整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
夏敷古窯跡	古窯跡	平安 近世	窯体・灰原 溝・土坑 溜池・溝	常滑陶器甕・広口壷・ 三筋壷・片口鉢・山茶碗 土師器伊勢型鍋 常滑陶器土管	保存状態が良好な 窯体を検出
蛇廻間古窯跡	古窯跡	平安		常滑陶器甕・広口壷・ 三筋壷・片口鉢・山茶碗 羽釜	三筋壷・羽釜の出土

文書番号 (夏敷古窯跡)	発掘届出(15埋セ第124号・15.3.16)　通知(15教生第72-13号・16.3.23) 終了届・保管証・発見届(16埋セ第37号・16.7.12)　鑑査結果通知(16教生第826号・16.8.4)
文書番号 (蛇廻間古窯跡)	発掘届出(16埋セ第26号・16.5.31)　通知(16教生第476号・16.6.9) 終了届・保管証・発見届(16埋セ第39号・16.7.21)　鑑査結果通知(16教生第828号・16.8.4)

要約	夏敷古窯跡は、平安時代末、1175～1190年に操業したと推定される甕主体窯である。発掘調査によって、保存状態が良好な窯体1基とそれに付随する前庭部と灰原が検出された。窯体の規模は残存長約11.5m、焼成室長9.0m、焼成室最大幅約3.5mである。出土した器種は、甕・広口壷、三筋壷、長頸壷(水瓶)、片口鉢、山茶碗、羽釜、陶丸などである。 蛇廻間古窯跡は、平安時代末、1150～1175年に操業したと推定される甕主体窯である。発掘調査によって、窯体やそれに付随する施設はすでに滅失し、灰原の一部が地表下深くに埋没するのみであることを確認した。出土した器種は、甕・広口壷、三筋壷、片口鉢、山茶碗、羽釜である。